

令和元年度 山陽小野田市中学生海外派遣事業 帰国報告書



令和元年8月8日(木)～8月19日(月)

山陽小野田市

目次

中学生海外派遣事業概要.....	2
------------------	---

- 1 目的
- 2 派遣先
- 3 派遣期間
- 4 派遣生徒及び引率者
- 5 スケジュール

活動日誌.....	5
-----------	---

ホームステイ報告及びホストファミリーの紹介.....	8
----------------------------	---

- ・派遣生徒
- ・引率者

◆中学生海外派遣事業概要

1 目的

山陽小野田市と姉妹都市モートンベイ市との交流を図り、もって両市の友好親善と相互理解を深めるとともに、広い視野と国際感覚を持った次代を担う人材を育成することを目的とする。

2 派遣先

オーストラリア クイーンズランド州 モートンベイ市



3 派遣期間

令和元年8月8日(木)～8月19日(月) 12日間

4 派遣生徒及び引率者(敬称略)

あおき みゆう 青木 美夕	竜王中学校 2年	いとう らみ 伊藤 羅未	厚陽中学校 2年
いまよし ゆうこ 今吉 柚子	厚狭中学校 3年	かく まりあ 角 まりあ	小野田中学校 3年
せき ほのか 関 穂乃香	厚狭中学校 3年	ひらばら みわこ 平原 美和子	埴生中学校 3年
みすみ まさと 美澄 将斗	高千帆中学校 3年	やまもと なつみ 山本 夏実	高千帆中学校 3年
ふじた たかこ 藤田 孝子	高千帆中学校教諭	おかの ふみえ 岡野 文恵	山陽小野田市職員



5 スケジュール

【出発前】

第1回オリエンテーション	6月17日(月)18:30～	市役所3階大会議室
第2回オリエンテーション	7月24日(水)13:30～ 25日(木)13:00	
(宿泊研修)		きらら交流館1階研修室
壮行会	8月5日(月)16:00～	市役所3階大会議室
第3回オリエンテーション	8月5日(月)壮行会終了後	市役所3階大会議室

【オーストラリア派遣期間】

8月8日(木)	厚狭駅～福岡空港(出発)～チャンギ空港(シンガポール、乗継)～
8月9日(金)	ブリスベン空港(到着)～モートンベイ市へ レッドクリフハイスクールにて歓迎式、終了後校内で過ごす
8月10日(土)	ホストファミリーと過ごす 夜:ラグビー試合観戦
8月11日(日)	ホストファミリーと過ごす
8月12日(月)	ホストファミリーと過ごす(祝日:Brisbane show day)
8月13日(火)	オーストラリア動物園
8月14日(水)	スカーバラ小学校訪問(※1)
8月15日(木)	レッドクリフハイスクールで過ごす
8月16日(金)	ハンピーボング小学校訪問(※2) レッドクリフハイスクールで授業、さよならパーティー
8月17日(土)	ホストファミリーと過ごす
8月18日(日)	ブリスベン空港(出発)～チャンギ空港(シンガポール、乗継)～
8月19日(月)	福岡空港(到着)～厚狭駅

※1 スカーバラ小学校は高千帆小学校の姉妹校

※2 ハンピーボング小学校は赤崎小学校の姉妹校

【帰国後】

帰国報告会	9月30日(月)17:00～	市役所3階大会議室
-------	----------------	-----------

【ラジオ出演】

今年度、新たな試みとして、派遣生徒8名が派遣前と派遣後の2回、ラジオ番組に出演しました。
出発前は意気込みや目標、帰国後はどんな体験をしてきたか、熱く語りました。

場所 FMサンサンきらら本社スタジオ

ナビゲーター 平山真紀子さん

日時及び出演者

◎派遣前

夏休み特別番組『行こう！モートンベイ ～さんようおのだ中学生海外派遣 特別番組 ～』

7月29日(月) 16:00～17:00 関 穂乃香さん 美澄 将斗くん

7月30日(火) 16:00～17:00 平原 美和子さん 山本 夏実さん

7月31日(水) 16:00～17:00 伊藤 羅未さん 角 まりあさん

8月1日(木) 16:00～17:00 青木 美夕さん 今吉 柚子さん

◎派遣後

特別番組『行こう！モートンベイ ～さんようおのだ中学生海外派遣 特別番組 ・レポート編～』

9月16日(月) 第1部 14:00～ 平原 美和子さん 美澄 将斗くん

第2部 15:00～ 青木 美夕さん 伊藤 羅未さん

第3部 17:00～ 今吉 柚子さん 関 穂乃香さん

第4部 18:00～ 角 まりあさん 山本 夏実さん



活 動 日 誌

日付	報告者	活 動 内 容
8/8 (木)	美澄 将斗	「移動」の一言で表せる一日でした。しばらく猫と会えないのが寂しいけれど、ホームステイ先に犬がいるので大丈夫(?) 合計 11 時間フライトは流石にエコノミークラス症候群になるかと思いました。チャンギ空港では端から端まで 4 往復するという謎の運動をしました。おかげで凄く空腹に。機内ではジャパニーズの機内食を選択しました。遂に明日 Dylan に会える!
8/9 (金)	今吉 柚子	オーストラリアに到着。レッドクリフステートハイスクールにはセラピストドッグという犬がいて「ノーマン」と呼ばれていました。日本にはないのでびっくりしましたが、かわいいワンちゃんでした。みんなで海岸で遊んだり、BBQをしたりしましたが、緊張して日本人で固まってしまいました。もっと積極的に自己紹介すれば良かったです。
8/10 (土)	山本 夏実	バディのネットボールの試合を見に行きました。私は、ネットボールを初めて見ました。試合を見るのはすごく楽しくて、私もやってみたくなりました。そこでローリーズというカエルの形のグミのようなお菓子を食べました。日本のグミよりもう少しかたいような感じでした。試合から帰ってきてからは家で一緒にネットボールをしました。わたしが思っていたよりも難しくて、なかなかゴールに入らなかったけど投げ方などをたくさん教えてもらって楽しくできました。 夜はラグビー観戦に行きました。久しぶりに日本のみんなに会いました。1 番上の席から見るのができて食べ物もあってとても豪華でした。応援はとても盛り上がりすぎてすごく楽しかったです。また、ラグビーボールやシャツなどをもらいました。選手に会うこともでき、たくさん写真も撮れてとてもいい思い出になりました。
8/11 (日)	伊藤 羅未	8 時に起きて、食事後にショッピングモールのお祭りに行き、お母さんのお土産を買いました。プールで足をつけたり、海の生き物を見に行ったりしました。そのあとバディがミュージカルをしていて、舞台練習を見に行き演技がうすぎて吸い込まれそうでした。私もバディのように何でも上手にできるようになりたいと思いました。食事を食べているんなことを話したりしてコミュニケーションがとれてとても楽しかったです。

日付	報告者	活 動 内 容
8/12 (月)	平原 美和子	朝食を食べてしばらくすると「この周辺で一番大きいショッピングセンターに行くよ。」と言われてそこに行きました。日本食の店もたくさんあり、昼食に寿司を食べました。生魚はサーモンくらいでチキンやツナなどがネタでした。ジャポニカ米でとても美味しかったです。店内は日本のショッピングセンターに似ていました。帰り道にイルカが見られるビーチやペリカンが見られる公園などに連れていってくれました。家に帰って家族に手紙を書いたあと、Elysse と Youtube を見ました。私の好きな曲を見たあと、Elysse が好きな日本のアニメソングを見ました。彼女はとても興奮していました。一緒にチョコカップケーキも作りました。その後、私はバーモントカレーを作りました。バディたちは頑張ってはしを使って食べようとしてくれました。「日本でもカレーはスプーンで食べる」と言うのスプーンを使ってくれました。以前よりぐんと仲良くなれた気がして、とても嬉しかったです。
8/13 (火)	関 穂乃香	今日はAustralia Zoolに行きました。バスで同じになったTaliaとめっちゃ友達になることができました。お姉さんがすごく早口でzooのことを説明してくれたけど全然聞きとれませんでした。コアラとカンガルーがとりあえずめちゃくちゃかわいかったから、とても楽しい1日でした。
8/14 (水)	青木 美夕	今日は、スカーバラ小学校に行きました。はじめは2つのグループに分かれて学校内を回りました。日本語の授業や音楽の授業をしていました。ウクレレを初めてひきました。楽しかったです。軽食後は2人1組のグループに分かれて回りました。小学生より小さい子のところへ行きました。可愛かったです。でも高速で話してくるので大変でした。
8/15 (木)	角 まりあ	今日は学校で授業を受けました。日本語のクイズや、オーストラリアのクイズを、生徒が持参しているパソコンやスマホを使ってしました。ペアになった人と相談して答えを選びました。授業はみんなが積極的に動いていて、見習いたいと思いました。その後、オーストラリアのお菓子「アンザッククッキー」を作りました。家に持って帰る分と、ホストファミリーにあげる分を作りました。おいしくできました。帰って渡すと喜んでくれたのでうれしかったです。

日付	報告者	活 動 内 容
8/16 (金)	平原 美和子	今日はハンピーボング小学校に行きました。とてもスタイリッシュで海の近くにあるおしゃれな建物でした。高学年の子に名前や好きな動物、スポーツなどをたずね、それを私がカタカナで書いて教えました。明るい子や、クールな子など、とても個性が豊かで、教師という職業に興味をもちました。昼休み、日本でいう「だるまさんが転んだ」をしました。ルールは日本とほぼ同じでとても親近感がわきました。その後ハイスクールに戻り、日本語の授業を見学したり、バレーボールをしました。日本のものとはだいぶ違いました。そしてついにさよならパーティーをしました。カルタはとてもうけていました。高校生はとても強かったです。ソーラン節も皆楽しそうでした。お菓子を食べたり、バルーンで遊んだり、色々な人と写真を撮ったりと、とても楽しい時間を過ごしました。
8/17 (土)	関 穂乃香	今日は小さな島に渡りました。1日にイルカとクジラと亀と鷹を同時に見ることができました。珍しくとても運が良かったです。また絶対来てね！と言われているみたいでした。景色もすごく綺麗で、本当にここに来ることができて良かったなと思いました。
8/18 (日)	山本 夏実	今日は朝、ビーチの近くであったフリーマーケットに連れて行ってもらいました。そこにはたくさんのお店が並んでいました。バディのおばあちゃんがハートの飾り物を買ってくれました。最後のドライブはバディとずっと手を繋いでいました。帰ってからはハンドボールと折り紙、紙飛行機を一緒にしました。ほとんど毎日一緒にやったハンドボールも今日で最後だと思うとすごく寂しくなりました。紙飛行機は白い紙にお互いに絵を描きあって、その紙を折って飛ばしました。集合時間は11時でしたが、ギリギリまで家でバディと遊びました。また、私は家族に手紙を書きました。それを読んでくれている時、私は内容が分かっていたので涙が出てきてしまいました。バディやいとこ、おばあちゃん、おじいちゃんがハグをしてくれました。そして11時に学校に行きました。家族での写真やみんなでの写真を撮りました。そして11時30分くらいにバスに乗り、バディと別れました。バスに乗る前からバディと2人で泣いてしまいました。離れるのはすごく寂しかったけど、私はとてもいい思い出を作ることができました。また絶対にここに来ようと思ったし、またバディやバディの家族に会いたいと思いました。
8/19 (月)	今吉 柚子	日本に着きました。オーストラリアに居た10日間、あちらは1度も雨が降らなかったのに、福岡は雨でした。オーストラリアの遠い遠い地平線を見慣れたから山ばかりの景色にびっくりしました。日本語で話しかけられているのについ英語で答えてたりしている人もいました。帰ってきて残念にもなったけど、ホッとしたりもしました。おにぎりが食べたくなかったので、待ち切れず空港のコンビニで買いました。久しぶりの日本の味は最高でした。色々な人のお世話になってこの最高の経験をさせてもらったから自分の今後にしっかりいかしていきたいです。



竜王中学校2年

あおき みゆう

青木 美夕

1計画(PLAN)

○積極的に英語を話す。

↳自分の英語が通じるか分からないけどおそれずに自分から話かけてみる。

○日本とオーストラリアの文化の違いを知る。

↳日本では当たり前と思ってやっていることが、オーストラリアではどう感じるのか、オーストラリアの人が当たり前と思ってやっていることが私たち日本人にどう感じるのかを知る。

2行動(DO)

初日は、ホストファミリーと会話をするできませんでした。しかし、三連休の間にいろんなところにつれていってもらい分からないものがあると「what's this」と自分から積極的に会話ができるようになりました。

三連休が終わる頃には何でも話せるようになりました。文法が分からないときは、単語をつなげて言いました。それでもホストファミリーや現地の人々には分かってもらえたので話して良かったと思っています。

3評価(SEE)

☆85点☆

初日は緊張や「この文法であってるかな？」と話すのをためらってしまいました。そこが減点の一つです。また、シャワーを済ませたあとに自室にこもってしまったのも減点の一つです。お母さんたちは寝る準備をしていましたが、バディはテレビを見ていたので話しかければよかったと後悔しています。



派遣生徒レポート～伝えようとする意志があれば～

学校生活について

オーストラリアと日本では、学校生活で大きな差があることにとてもびっくりしました。日本では学校に自転車や徒歩で来ることが一般的ですが、オーストラリアはお母さんたちに車で送ってもらったり、バスが出ていたり、自転車、徒歩で来たり、様々で自由なんだなと感じました。

また、日本にはない軽食の時間がありました。みんな、おやつや果物を食べていて、バディに「おやつは普段持っていてもいいの？」と聞くと、「いいよ。日本の学校も同じでしょ。」と言われ「日本の学校はダメだよ。」と教えるとても驚いていました。

私が一番驚いたことは、学校内でほとんどの生徒がスマホをさわったり、パソコンで授業を受けていたことです。日本ではスマホを持ってきたら怒られるのにオーストラリアでは当たり前なんだと文化の違いについて知ることができました。



ホームステイについて

私のホストファミリーはフレンドリーで私にいろいろ話題を振ってくれました。仲が良く弟の Patrick は Mom によくキスのおねだりをしていて、Mom は私の方を見て呆れながら笑っていました。

まず初めて会った日におみやげを渡しました。おみやげを渡すと、「That's good」「So cool」と言ってくれました。Ella はお寿司のキーホルダーをすぐに着けてくれました。Mom は日本の調味料に興味を示してくれて、「どうやって使うの？」と聞いてきたので「私が今度作るから楽しみにしててね。」と言うと「待てない！」と言っていました。

ホストファミリーは私をいろんなところに連れていってくれました。ブリスベンや海、祖父母の家や、動物園など私が「～に行きたい。」と言った全てのところに連れていってくれました。おかげで私はやりたいことをすべて成しとげることができました。



最終日、ホストファミリーが私にプレゼントをくれました。オーストラリアの記念コインをもらったり、お菓子、マグネット、カンガルーの人形、コアラの筆箱などいろいろなものをもらいました。私はこの十日間ホストファミリーとすごせて本当に良かったです。ホームステイは不安や緊張もあるけど、新たなものを発見するものでもあります。私は今回 Napper 家にホームステイができて良かったです。

Napper 家のみなさんありがとう！そしてまた戻ってきます。



印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

私は今回この事業に参加できて本当によかったです。2年生でこの事業に参加するのはけっこう大変でした。文法で習っていないことを言わないといけないし、知っている単語の数は少ないし色々大変でした。

正直、とても不安でした。でも飛行機に乗った瞬間、不安は飛び去りました。CAさんに英語通じるじゃん！って思うとオーストラリアに早くつかないかなと楽しみになりました。帰ってきた今では「もう1回行きたいな。」「次は違う国に行きたいな。」と思うようになりました。違う学校の子とも友達になれました。

この事業は自分にとっていいことしかありませんでした。興味がある人はぜひ1歩ふみこんでほしいと思います。

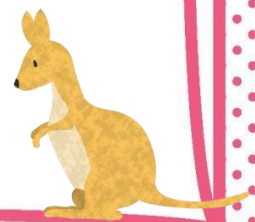
お世話になったホストファミリー



母: Rebekka Napper

バディ: Ella Croker

弟: Patrick





厚陽中学校2年

いとう らみ
伊藤 羅未

1計画(PPLAN)

- ① 英語を好きになりたいです。全然英語が好きではありません。理由は勉強をしてもなかなか覚えられないから。オーストラリアで本場の英語を聞いて英語の楽しさを知りたいです。
- ② コミュニケーションと表現力を高めるため、言葉は全然通じないけどジェスチャーなどを通して現地の人達と触れ合いたいです。私の好きなことはダンスなので現地の人とダンスを楽しく踊って自分自身の表現力を高めたいです。
- ③ オーストラリアでの生活を楽しまたいです。スクールやホームステイ先で学んだことを日本で生かしたいです。

2行動(DO)

初日は飛行機が揺れて体調不良になり、学校の人達とコミュニケーションを取ることができませんでした。翌日も具合が悪くて昼過ぎまで寝ており、その後、ホームステイの人たちとカフェに行きジェスチャーなどでコミュニケーションが取ることができました。緊張も和らぎどんどん写真を取り合ったりして交流をしました。

自分のダンスはヒップホップですが披露することはできませんでした。アビーと一緒にタップダンスの教室に行きタップダンスをしたりしました。

ホストファミリーにいろいろなところに連れて行ってもらいました。遊園地や動物園に行ったりしてとても感動しました。

3評価(SEE)

☆70点☆

バディはミュージカルをしていたため、タップダンスをしていました。ジャンルは違っていたけれど、一緒にダンスができてよかったです。自分のダンスを披露したかったけどタイミングがなくて披露できなかったのが残念でした。

英語が話せないためスマホで通訳アプリを使用したことが多かったです。まず英語の聞き取りができず、繰り返し聞いたりしたため翻訳アプリを使って話しました。

海外に行くためにはリスニング力を高めて会話ができるようになりたいです。



派遣生徒レポート～帰国報告～

学校生活について

レッドクリフハイスクールで教室が科目ごとに分かれていて、生徒が自分たちで各教室に移動することが日本とは違って驚きました。教室もたくさんありました。生徒は教室にスマホなどの持ち込みができ、ノートを使っていませんでした。学校には売店があり、なんでも買えるなど羨ましいと思うことが沢山ありました。



協力をしながらゲームをしたりしてコミュニケーションをとることが多かったです。質問されても言葉が早すぎて聞き取れず、パソコンなどを使用して答えました。学校ではホームステイ先のファミリーとは違い言葉が早すぎて聞き取れませんでした。



ホームステイについて

オーストラリア初日に体調が悪くて迷惑をかけてしまいました。私の体調も考えてくれながらいろいろな場所に連れって行ってもらいました。はじめは英語の聞き取りもできず、話すことができませんでしたが、言葉を何度か繰り返してもらうことで理解でき、何とかジェスチャーなど交えながら会話をしました。どうしても理解ができないときは翻訳アプリを使用し、コミュニケーションを取りました。そして、いろいろな会話をすることができました。リスニング力と英語力があれば会話や自分の意志を伝えることができたと思います。今後は英語を勉強して話せるように努力したいと思い、英語を習い始めました。オーストラリアに限らず、海外や、日本でも英語を話す場で再度チャレンジしたいと思います。



ホストファミリーがとてもやさしくて過ごしやすかったです。会話はゆっくりで聞きやすいように工夫してくれましたので分かりやすかったです。シャワーは毎日入れました。洗髪は2日に一回でした。水不足と聞いていたのでシャワーの時間は短くするようにしていましたがファミリーからは何も言われませんでした。

バディ(アビー)とも気が合い仲良くなれました。現在もインターネットを通

じて会話、交流しています。海外で友人がいるということはとても有利に感じます。この交流を大切にしたいと思います。

私は食事のことが一番心配でしたが自分の好きな食べ物などを食べることができました。行く前から、情報を得ていた「カンガルーのステーキ」が食べたいとリクエストをして、食べることができました。とてもおいしかったです。

日本からごはん、味噌汁、ふりかけ、カップヌードルを持って行ったので紹介し、一緒に食べることを提案しましたがピザを頼んだと言われ、一緒に食べることはできませんでした。ピザの中にパイナップルが入っていて抵抗を感じましたが食べてみたらおいしかったので良かったです。



印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

水族館と遊園地が楽しかったです。水族館ではイルカショーがあり、直接イルカに触れたことがよかったです。ホストファミリーと移動するときは、お母さん、お姉ちゃんの4人のことが多かったです。いろいろなところに連れて行ってもらえました。言葉が通じないときはアプリを使って分かりやすい言葉でアプリに何度か入力したこともありました。

英語ができなくても、一応行けてコミュニケーションが取れますが、やっぱり英語のリスニング力や英語力が大切で単語の綴りを覚えておくことが大切と思いました。初日は緊張してコミュニケーションが取れないけど、2～3日したら自分の素が出せてコミュニケーションがとれるようになります。

私は自分では酔ったりしないと思っていましたが、飛行機で眠れなかったこともあり、揺れと寒さには注意してください。もっと準備が必要だったと思いました。



お世話になったホストファミリー



父: Gerald Gommers

母: Erica Benci

姉: Samantha

バディ: Abbie





厚狭中学校3年

いまよし ゆうこ
今吉 柚子

1計画(PPLAN)

・たくさんの人と話す→英文が浮かばなくても、単語、ジェスチャーを駆使する

- ・異文化交流→・日本の写真をたくさん持っていく
- ・折り紙を一緒にする
- ・料理(からあげ、おすし)を作る
- ・Ashley の教科書を見せてもらう(歴史を学ぶ)
- ・図書館でオーストラリアについて調べる

2行動(DO)

- ・ジェスチャーをたくさん使ったり、表情を豊かにして自分の気持ちが伝わりやすくなりました。日本食を作りました。英語の映画を見ました。日本文化や日本語について話しました。
- ・最初は、Google の翻訳を使いたくてたまらなかったけど、慣れたら楽しかったです。

3評価(SEE)

☆90点☆

伝わらなくて、あきらめることがあったからです。でも翻訳機を使ったりせずに会話できて良かったです。物怖じせずに、積極的に話しかければ、たとえ英語が下手でも通じると分かりました。自分が楽しんでいれば笑顔が相手にも伝わります。Smile は世界共通でした。

これからも笑顔を忘れずに人と接したいです。



派遣生徒レポート～驚きばかりの10日間～

学校生活について

オーストラリアの学校生活は日本ととにかく違っていました。まず1点目は、校則です。ヘアカラーもピアスもメイクもネイルも自由で、制服はたくさんのバリエーションがあり、その中の一つを選んで着用していました。スマホも授業に持ち込んでいました。これが必ずしも正しいとは言えませんが、私には自由で積極的な学習の象徴に見えました。日本で髪を2色に染めていたら、先生に注意されてしまいますが、オーストラリアでは個性です。実際にオレンジと金の髪の女の子がいましたが、とても楽しそうに日本語を勉強していたし、優しい子でした。先生の話さをきちんとした姿勢で聞く習慣はないですが、誰も先生の話を下を向いて聞いている人はいませんでした。あぐらをかいていても、寝っころがっていても顔は先生に向いていたし、



スマートフォンをいじったりもしていませんでした。勉強していなくて点数を取れなかったら自分の責任というシビアな面もあるようですが、押しつけられるのではなく自分の好きな分野を選択してのばしている人が多く、すてきな勉強のやり方だと思いました。また、多民族の国ということで、黒人・白人・様々な人がいましたが、容姿に関係なくフレンドリーでお互いを尊重していたのがすばらしいと思いました。これからは、自分が興味・関心があることに積極的にふれ、前向きに学習していきたいです。

ホームステイについて

私のホームステイ先は、家を出て1人暮らしをしている20代のお兄さんと、バディの Ashley、Mam と Dad の家族でした。

Dad はいたずらっぽい人で、いつもおもしろい事をしていました。ジョークが書いている T-shirt を着たり、ショッピングカートに乗って走ったり、親父ギャグを言ったりしていました。夜ごはんの時は、どんな事を話せば良いのか最初は迷っていたけど、Dad が聞きとりやすい英語で話しかけてくれたので話題に困らなかったし、緊張も解けました。Mam は表情豊かで明るい女性でした。仕事もあるのに、私と Ashley をいつも学校に



送り迎えしてくれて、家事なども一つ一つ楽しげにこなしていて素敵な女性でした。Ashley は2歳上なので、お姉さんらしくサポートしてくれたり気づかせてくれたりもしましたが、イタズラしてきたり、勉強したくないと言ったり、つまみ食いしたりして妹みたいな所もあり、一緒にいてホッとしました。今では最高の友達です。また、日本に興味津々で、しょっちゅう「～って日本語で何て言うの?」とか「～は日本だとどんな風にしてるの?」とか質問してきて、私の下手な説明をたくさん聞いてくれました。3人ともしょっちゅう「Are you OK?」

「What do you want?」「Did you have a good sleep?」と聞いてくれて優しかったです。Van prough 家はオ

ーオーストラリアではめずらしくファストフードやジュースをほとんど口にしないでヘルシーな食生活だったのが印象に残りました。

また、お互いを大切にされていて、Dad や Mam はよくスマートフォンから Ashley の小さな頃の写真を出してきて「かわいいでしょ」と私に自慢していました。Ashley も Dad や Mam の家事を手伝ったりしていました。食後はTVを見ずに、家族でUNOをしたり、ジェンガをしたり、ティーカップを片手にゆっくり話したりしていました。Mam が忙しくても家族の時間を大切にしたいと言っていました。そんな家族の中に入れてもらえてとても幸せでした。VanPrough 家は私の second home です。私もあの人たちのように常に幸せを見つけているポジティブな人を目指したいです。



印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

オーストラリアでの10日間は、とにかく驚きに満ちていました。文化や習慣の違いでも、ものすごくびっくりしましたが、何より自分に驚きました。自分はこんな場面で人に話しかける勇気があったんだとか、よく笑うと指摘されて驚いたりもしました。笑顔でいるだけで話しかけてくれる人も増えたとし、自分も楽しい気持ちになりました。「緊張しても、まず笑顔から」を実践してみたいです。これから訪れるたくさんの課題も楽しみながら笑顔で乗りこえたいと思います。

お世話になったホストファミリー



父 : Simon Van Praagh

母 : Angela Boardman

バディ : Ashley





小野田中学校3年

かく

角 まりあ

1計画(PLAN)

○超積極的に行動する。

→初日から頑張って自分から話しかける。話す話題を考えておく。

○英語力を高める。

→文法など気にせずに、相手に伝わるように分かる単語をたくさん話す。分からない言葉があったら、すぐに聞いて教えてもらう。

○オーストラリアのよさをしっかりと学び、これからに活かす。

→普段からいろんなところをよく観察したり、オーストラリアの人とたくさん話したりしてよさをみつける。

2行動(DO)

簡単な英文でもいいからとにかく話しかけました。それに対してたくさん返してくれたし、話を広げてくれたので話しかけてよかったと思いました。分からないことがあったらすぐに質問しました。するとみんな親切に答えてくれました。日本ではこんなことをするよとたくさん教えると、「おもしろいね！」や「いいね！」と言ってくれたのでどんどん話すことができました。

3評価(SEE)

☆90点☆

初日の日は全然積極的に話しかけられなかったから、そこを減点しました。それ以外はとても充実した日々をおくることができました。今後は、オーストラリアで学んだ積極性を活かして、どんなことでも挑戦したいと思います。後悔のないように何事もやっていきたいです。



派遣生徒レポート～私の第2の故郷～

学校生活について

私が通ったレッドクリフハイスクールは、先生も生徒もみんな親切でおもしろくて、毎日通うのが本当に楽しかったです。授業は日本語の授業と体育の授業を受けました。日本語の授業では、みんなが「センセイ」と呼んでいてとても可愛かったです。授業の内容は“日本について知る”というようなもので、みんなが積極的に質問してくれたり、自分たちが調べてきたことを見せてくれたりしました。オーストラリアの人は親日家の人が多く、日本のアニメや歌手を知っている人がたくさんいて、うれしかったです。授業の中でオーストラリアのスラングを覚えてもらいました。マクドナルドはマックスというそうです。体育の授業では、バレーをしました。初めて会ったクラスの人達だったけど、名前を教えるとたくさん呼んでくれて、団結力が出ました。私はバレーが苦手だったけど、打ち返せるとチームのみんながほめてくれたので本当に楽しかったです。休み時間は、ボールで遊んだり、みんなで昼ごはんを食べたりしました。そこで毎日たくさんの友達ができました。私はこの学校に転校してきたいなと思ったほど楽しかったです。日本の学校でも積極的に発表や行動する人が増えてほしいので、まずは私から発信していきたいなと思いました。



ホームステイについて

ホームステイ先の Pope 家は日本が大好きで、よく日本の話をしました。そのおかげで、日本についてたくさん教えることができました。ホームステイ初日、積極的に話しかけようと心に決めていたのに、思った以上に言葉が出てこなかったし、質問の内容も聞きとれなかったりして、私はとても弱気になり、不安がMAXに達しました。お母さんに電話をかけて話していたら、涙が出てきました。これからやっていけるだろうか、と考えていたとき、バディの Jasmine と姉の Liana が部屋にきてくれてたくさん話しかけてくれました。本



当にうれしかったし、少しずつ不安が減っていきました。Liana は日本語がとっても上手だったので、日本語で話しかけてくれました。分からない英語があったらすぐに教えてくれたし、逆に私は日本語を教えました。Liana と一緒に部屋を使ったので、夜はアニメの話をしたり、学校の話をしたりしました。Liana のおかげで不安はなくなりました。Jasmine とは、彼女のボーイフレンドの話をしたり、買い物に行ったりして、服を一緒に選んだりしました。Jasmine はとってもおしゃれで絵が上手でした。私の憧れの存在になりました。Mother の Lara は明るくていつも話しかけてくれました。それに応えられるように一生懸命英語を話しました。彼女の作るご飯はとてもおいしかったです。私がカレーを作ったとき、気に入ってくれるか不安でしたが、みんなが「おいしい！」と言ってくれたのでよかったです。



father の John は、毎日送り迎えをしてくれたり、いろんなところに連れていってくれました。家族みんな私に優しく接してくれて本当にいい家族に出会えたなと思います。

12月に日本に来るのでそのときに会うのが楽しみです。



印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

印象に残ったことは、一人一人の個性がしっかりあって素敵だなと思ったことです。髪を染めたり、ピアスをあけていたり、制服の着こなしもちがったりして、いいなと思いました。

来年度の派遣生徒さんに向けて、伝えておきたいことは、不安がたくさんあるときは絶対あると思うけど、本当にオーストラリアの人達はいいい人です。「こんな簡単な質問していいのかな・・・」など思わず、言葉にしてみてください。絶対に笑顔で返してくれます。どんなことでもいいから、行動することが一番だなと思いました。

お世話になったホストファミリー



父: John Pope

母: Lara Pope

姉: Liana

バディ: Jasmine





厚狭中学校3年

せき ほのか

関 穂乃香

1計画(PLAN)

- ・英語を突然話しかけられても対応できるようになる。
- ・英語を得意になる。他の人より出来るようになる。
- ・そのためには、積極的に現地の人やバディと沢山話す。

2行動(DO)

・発音が違うと「は？」と言われてとても怖かったけど、日がたつにつれ、そうなることが少なくなっていき、嬉しかったです。レッドクリフ中学校で英語で沢山話しかけたら、あまり上手ではない英語を必死に理解してくれるように聞いてくれてとても嬉しく感じました。

3評価(SEE)

☆85点☆

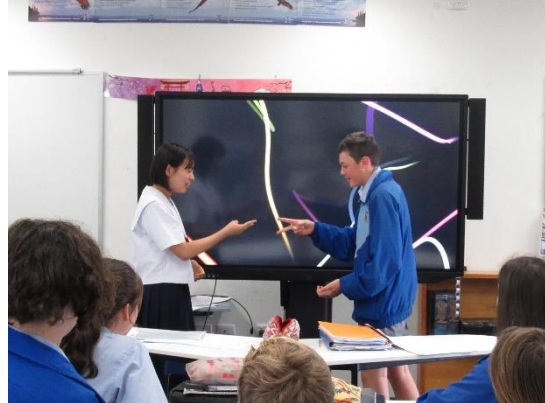
最終日が近くなるにつれ、話す話題が無くなっていったから85点です。この経験から、もし道に迷っている外国人の人がいたら話しかけたり、案内したりするようにしたいです。



派遣生徒レポート～オーストラリアと日本の比較～

学校生活について

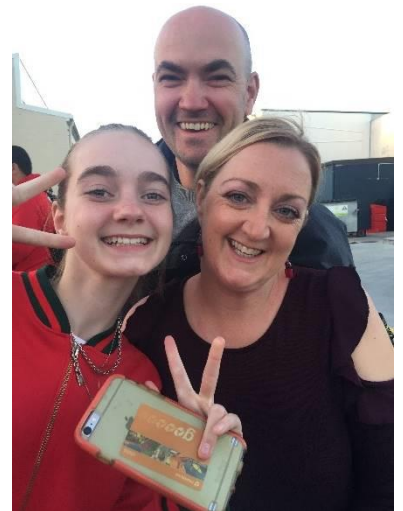
学校が日本に比べてとても広く、廊下はほとんど外でした。先輩・後輩の区別がなくランチを食べる時はよく一緒に食べました。購買があり、ランチを忘れた人はそこで買っていました。授業は4時間で1時間60分位であり、日本より長いです。部活はなく、15時に学校は終わります。ICT化が日本よりも進んでおり、一人一台ノートパソコンを持っています。宿題も紙ではなく、ノートパソコンでします。授業中はスマホをいじっても良いです。でも、授業で出されるプリントなどがとても難しいです。登下校は車かバスでした。学校の前にはバス停があり、そこで降ります。日本に比べてとても自由だと感じました。



ホームステイについて

ホームステイ先に行ってびっくりした事は家がとても広かった事です。庭もあってペットでニワトリが4匹もいました。トランポリンなどもあってそこで自由に遊びました。1日目の夕食はホストファザーが米を使った料理を作ってくれました。でもオーストラリアの米はほとんどがインディカ米でした。朝食はシリアルか食パンで、日曜日はパンケーキデイでした。日本よりも食べる時間？が多く、おやつを沢山食べました。でも、ポテトチップスなどの油を使った物ではなく、クラッカーやフルーツなどのかるいものでした。野菜はほとんど食べなくて、フライドポテトをよく食べました。

夜の寝る時間が午後8時で、朝起きるのが午前7:30のとても長い時間睡眠をとっていました。



印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

オーストラリア以外でもチャンギ空港も意外と楽しかったです。飛行機の中は結構狭くて、寝る時は首を固定することができないからネックピローが必ずいると感じました。オーストラリアには日本が好きな人が多くて、学校の知らない人達が沢山話しかけに来ました。その人達とは友達になれたから、沢山話しかけたらいいと思います。



お世話になったホストファミリー



父: Oli Gorski

母: Allie Gorski

バディ: Katie

妹: Isla





埴生中学校3年

ひらばら みわこ

平原 美和子

1計画(PPLAN)

- 海外の人と、会話ができるくらいのスピーキング力、リスニング力をつける。
 - ・緊張したり、ためらったりせずに、積極的に話しかけ、わからないことはすぐに質問して解決する。
- 日本の文化を伝え、オーストラリアの文化も体験する。
 - ・折り紙や扇子などを持っていったり、写真なども使って日本の文化を紹介する。
 - ・風景や食べ物、生活習慣などに注目し、しっかりと目にやきつける。
 - ・メモをとるなどして、知ったことを忘れない。

2行動(DO)

初めは、話すどころか、聞きとることもできず、とりあえず「Yes」と言っていて、とても後悔しています。また、緊張していてあまり話しかけられず、わからないことがあっても質問していませんでした。しかし、「おどおどしていたら、時間ももったいないし、後悔してしまう。」と思い、食べ物の名前や鳥の名前など、日本にないものを見つけたら、「What's this name?」とすぐに聞くようになりました。そのような会話をくり返すうちに、耳も慣れ、また、自分から話しかけることができるようになっていました。日本らしいものを渡したとき、「cool!」と言ってくれ、とても喜んでくれました。オーストラリアの文化や生活習慣は意識して覚えようとしていたり、メモをとったりして忘れない工夫をしました。

3評価(SEE)

☆85点☆

理由は、特に初めの数日間に、ほとんど自分から話しかけていなかったからです。「緊張せずに、積極的に話しかける」というのが私の目標でしたが、ガチガチに緊張して、話しかけられるまで無言、ということもしばしばあったので、そこで－10点です。－5点は、聞きとることができなかつたとき、雰囲気で「Yes」や「NO thank you」と言ってしまったからです。それによって、話がかみあわず、お互いに・・・となって、翻訳機を使うということもたまにありました。次に外国の方と話す機会があれば、すぐに質問して雰囲気で返すことがないようにしたいです。

派遣生徒レポート～たくさん見つけた「大切なこと」

学校生活について

学校生活は日本と違うことばかりで、毎日驚いていました。ピアス・お化粧・髪を染める・スマホ・お菓子、かざりのついたヘアゴムなど日本で禁止されていることの多くが許可されていました。給食はなく、ランチタイムが11時30分頃と12時40分頃の2回あり、はしやスプーンは使わず、そのまま手で食べていることがほとんどでした。小学校では、サーモンの刺身を手で食べている子もいて初めはそのような食べ方に戸惑っていましたが、だんだん慣れていき、ハイスクールに行く最終日には「日本でも、こんな感じの昼ご飯だったらいいのにな～」と言いながらリンゴをそのままかじったりしていました。それにしても、ランチタイムが2回あるのは本当に羨ましいです。



授業は、小学校でもハイスクールでもタブレットやパソコンを使っていることが多かったです。クイズ形式になっていたり、音楽にあわせて曜日の勉強をしたりと、とても楽しそうでしたが、日本のようにガリガリ勉強している感じではなく、しっかりと知識が身に着くのかなと疑問にも思いました。

そして、一番驚いたことは、生徒たちのフレンドリーさです。初めてハイスクールに行ったとき、たくさんの人が話かけてくれたり、自己紹介をしてくれました。私は初対面の人と話すのが苦手で、おどおどしたり、何を話せば良いかわからなくて、シーン・・・となることもあります。そこで会った人たちは、とにかく話しかけてくれて、そうしているうちに気付いたら仲良くなっていました。このように「笑顔でとにかく話しまくる」ことはこれから大切にしていこうと思いました。初めに会って、そのことに気付かせてくれた、あの女の子4人組には本当に感謝しています。

学校にはラグビー場、バスケットコート、体育館、移動用の大きな空中道路(?)の他、和室まであり、日本の学校よりも広かったです。小学校には売店もありました。そして小学校でもハイスクールでもいたるところにカラフルでおしゃれなペイントがありました。オーストラリアの学校は日本の学校にはない良いところがたくさんありました。ですが、日本にあってオーストラリアにないものもありました。まず、掃除です。日本では授



業が全て終わった後、生徒が掃除をしますが、オーストラリアはそんなことはしていませんでした。朝早くハイスクールに行ったときに、大人が機械を使って落ち葉を掃除しているのを見たので、きっと業者の方や先生がしてくださっているのだと思います。部活動もありませんでした。スポーツをしたい人はクラブチームに入っているようでしたが、バディの Isabella のネットボールチームは私が滞在していた10日間で1度しか活動していなかったもので、日本の部活動のように、ほぼ毎日ハードに活動するといった感じではありませんでした。

ハイスクールに早く着いてしまったとき、バディの Elysse がホワイトボードに「すみません、退屈しました。」と書いていました。Elysse は1つ上のバディの Isabella とけんかをしていたので、きっと「sorry.I was boring (ごめんね、私はあなたにうんざりしていました。)」と書きたかったのだと思います。ですが、翻訳機を使うとこのような文になっていました。他にも「私はとても奇妙です。」や「お帰りなさい」など、色々な文が作られていき、とてもおもしろかったです。同時にもし、翻訳機があったとしてもそれに頼っていたらいけないなと思い、自分の力でずらずらと会話ができるくらいの英語力をつけるために、もっと勉強しなくてはならないなとも思いました。

ハイスクールの人たち、小学校の子供たちは皆優しくおもしろく、良い人ばかりでした。また、日本語担当のジェシカ先生には色々な面でとてもお世話になりました。本当にありがとうございました！

ホームステイについて

私のホストファミリーは大家族でした。ホストマザーの Samantha、バディで14歳の Isabella、同じくバディで13歳の Elysse、5歳の Imogen と3歳の Georgina と猫の Ivy と犬の Bowie です。小さい妹が2人いたので、家の中はいつもにぎやかでおもちゃがたくさんありました。

Imogen は私にたくさん話しかけてくれ、一緒にいっぱい遊びました。もしかしたら、バディの2人よりも Imogen といった時間の方が長いかもしれません。Imogen の英語はゆっくりなときもあり、聞きとり易かったのですが、Georgina はいわゆる赤ちゃん語でほとんど聞きとれず、たくさん話してくれても、「Wow」や「That's good!」と言うことしかできませんでした。2人とも私のキャリーケースに登って、そこからベッドに登って「Jumping!!!」と言いながら飛びおりたり、Georgina はソファから落ちて泣き、レゴの上で転んで泣き、ショッピングセンターから帰りたくなくて泣き・・・と、とにかく元気でした。ですが、そんなところが本当に可愛くて、末っ子で妹のいない私は気がつくともろもろになっていて、日本につれて帰りたいかったです。本当に本当に可

愛いすぎました！

バディの Isabella は学校を歩いているときに「This is music room～」などと、たくさん学校について教えてくれました。しかし、初めて会ったときだったので、表情はガチガチ、返事も「Oh…yeah…」といった感じになってしまいました。あの時もっとたくさん話しておけば良かったと、とても後悔しています。Isabella はクールな性格で、家にいるときも常に無表情！といった感じでした。初めて家に行った日、私の誕生日が近かった



ので、なんと着いてすぐにバースデーパーティーを開いてくれました。しかし、予想以上に甘いケーキや赤や緑のグミなど、慣れていないものが多く、ほとんど食べられずに緊張して固まってしまいました。すると Isabella が翻訳機で「もうお腹いっぱい？」と聞いてくれたのですが、それは無言ですとスマホを見せられ、なんとなく怒っているっぽい表情(そんなつもりはきつとなかったと思います。)だったので、内心「この人…こわっ！」と思っていました。

同じくバディの Elysse は Isabella が私に学校のことについて教えてくれているとき、ときどきふりむいてにつこり笑ってくれました。私の部屋は Elysse の部屋を横切っていかなければいけないので、その時に「sorry.」と言っていました。するといつも「That's OK.」と言ってくれ、仲良くなれそうな気がしました。…が！ Isabella も Elysse も家にいるときはほとんどスマホやパソコンを見ていました。とても熱心にそれらを見ていて、話しかけて良いのかわからず、いつも妹2人と遊んでいました。また、Isabella はその後も私に伝えなければいけないことがあると翻訳機をずっと見せていました。昨年度派遣された方の帰国報告書に「翻訳機は使わなくていいよ」と言うことができた、といった内容があったことを思い出し、そう言おうと思ったこともありましたが、私にはそこまでの英語力がなく、それ以上に「これで聞きとれなかったらどんな表情をされるだろう」とマイナスのことばかり考え、結局言うことができませんでした。

そのようなことから、バディの Isabella と Elysse とは家ではあまり会話することができず、思うように仲良くなることもできませんでした。今思えば、たとえ相手がパソコンを見ていようとバンバン話しかけていけば良かったと思っています。…ですが、思い出してみると2人と話す機会はあったかもしれません。少しの間でしたが、Isabella と折り紙で風船・つるを折って、その風船でバレーもどきをしたとき、その後 Isabella の部屋で話したとき、Elysse と一緒にアニメを見たときです。仲良くなるチャンスはいくらでもあったのに、ほとんど見逃していたことに帰国してから気付きました。次に会うときにはもっと英語が話せるようになって、いっぱい話そうと思います。ホストファミリーとは色々なところに行きました。海辺への散歩・ショッピング・Ekka というまつり、映画…など数えきれません。中でもバディの2人とそのおじいさん・おばあさんの家に行ったときは衝撃的でした。その家はTHE☆セレブといった感じで、天井のない車に乗らせてもらったり、ナイフとフォークですつつごく上品に鶏肉のオレンジジュース煮を食べたり、巨大ブランコに乗ったりしました。ベットには屋根がついていて、机の上にはアボカドが上品に置かれていました。初めてセレブを体験して、驚くことばかりで目玉がとび出そうでした。

私は日本を出発して4日目にどうしようもないくらいホームシックになってしまいました。何を見ても日本の家族や部活動の同級生・後輩のことを思い出し、とても寂しかったのですが、スマホを持っていないので連絡を取ることができませんでした。部屋で泣いているとホストファミリーがなぐさめてくれ、なんと米を炊いてくれました。その時のご飯はパサパサしていましたが、今までで一番美味しかったです。その日から日本が恋しいという思いは薄れ、思いっきりオーストラリアを楽しむことができました。

「妹と生活してみたい」「犬や猫を飼ってみたい」「外国で暮らしてみたい」…などの～してみたいを、こ

のホームステイでたくさん叶えることができました。そして、ふと気が付くと Lam 家を本当の家族のように思い、大好きになっていました。絶対にまた帰ってこようと思います。Lam 家がホストファミリーで本当に良かったです。

印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

町には Rainbow bird と呼ばれる虹色の鳥がいました。初めは誰かのペットが逃げ出したのかと思っていましたが、いろいろなところにいたので、ペットではなさそうです。また、歩道の溝のフタのようなところにカモノハシがプリントされていました。オーストラリアの自然の雄大さを感じました。

Elysse は日本のアニメが大好きでよくそれを見ていました。日本人で昔アニメにはまっていた私も知らないようなマニアックなアニメばかりで、セリフも日本語で覚えていました。部屋にはポスター、フィギュアもあり、日本の文化が海外の人にも人気があることを学びました。また、和食を伝えるために卵焼きを作ったこともありました。普段はあまり食べない Mam が「Very yummy!」と言ってくれ、たくさん食べていました。バーモントカレーや果汁グミ、おにぎりせんべいは特に好評で、日本の文化・食べ物はすごいなと改めて感じました。正月かざりを燃やす「どんどやき」を説明するとき、何と言って良いのかわからず「Traditional Japanese happy new year decoration in fire!(日本の伝統的なあけましておめでとう飾り、火の中へ!)」というめっちゃくちゃな文になってしまいました。それでも何となく伝わったので、文法を気にするよりもどんどん伝えようとする方がコミュニケーションがとれるなと思いました。

帰国して、びっくりしたことがあります。英語のリスニングテストで前まではわかる単語を聞きとってなんとか答えを出す……といった感じでしたが、帰国後はまるで日本語のようにスラスラと頭に入ってきました。気付かない内に英語力がついたのだなと思いました。また、今まで「いただきます」と言わずにひじをついて食べる外国の方を見ていて、行儀悪いなと思うこともありました。しかし、オーストラリアではそれが普通で、私はあることに気付きました。それは今まで私が行儀が悪いと思っていたことは、文化の違いである、ということです。外国に行くと色々な価値観を学べ、私は以前より外国に興味をもつようになりました。大人になったらたくさんの国に行って、世界中の人と友達になりたいです。

お世話になったホストファミリー



母:Samantha Lam

バディ:Isabella Lewis

バディ:Elysse Lewis

妹:Imogen

妹:Georgina





高千帆中学校3年

みすみ まさと

美澄 将斗

1計画(PLAN)

僕は今回の事業に参加するにあたって、積極的にホストファミリーと関わっていきたいと考えています。バディとは既に何度も連絡を取り合っており、友好的な関係を築けているので、ホストファミリーとはすぐに打ち解けることができると思います。元々、自分はコミュニケーション能力は高い方だと思っているので、外国人相手でも仲良くできる自信があります。

今回の事業をターニングポイントに、将来は世界中の人と仲良くなって、様々な言語を話すことのできるグローバルな人間になる努力をしていきます。言葉がうまく通じず困ることもあるかもしれませんが、昨年度派遣生徒の報告を見ると、案外いけているので、その要領で頑張りたいと思います。

2行動(DO)

自分の意見をはっきりと言いました。ブリスベン空港からレッドクリフハイスクールまでのバスの運転手から、日本人は遠慮の精神があるので、食べ物をすすめられると本当は欲しくないものでも YES と言ってしまいがち。しかしそれはいらないと言われたので、YES、NO をきちんと言うことができました。

初日、はさみが欲しかった時に、ネイティブの英語を聞きすぎて自分の英語に自信が持てなくなり、筆記ならできたはずの簡単な文章が出てきませんでした。名詞とジェスチャーで理解してもらえたが、いつも学校では英語できちんとした文章が作れるのに実践で全く使えなかったことがすごく悔しかったです。

学校では生徒となじもうと頑張って積極的に話しかけました。

ブリスベンやシーワールド(ゴールドコースト)、飼い犬のメジャーの散歩やビリヤードに行きたいというと、ホストファミリーは喜んで連れて行ってくれました。正直、ここで言えたことはとても良かったと思っています。後の話では、ブリスベンに行く予定はなかったと言っていたので、あの時の勇気は大正解でした。

他には、日本から持って行ったお菓子を一緒に食べたり、富嶽三十六景のデザインのTシャツをプレゼントしました。どれも喜んでくれました。最終日にバディが着てくれた時はとても嬉しかったです。



3評価(SEE)

☆90点☆

10点減点の理由は序盤です。聞き慣れない単語や高速の英語に圧倒され、YES、NO と適当に答えてしまったことです。中盤からは慣れやジェスチャーでそんなことはありませんでしたが、序盤の適当な返答はとても後悔しています。恥ずかしがらずにちゃんと聞き返せば、ホストファミリーもゆっくり話してくれたりジェスチャーで教えてくれたりしました。他は非常に良かったと思います。積極的に笑顔で会話し、一緒にゲームをして楽しめたので、そこは評価できる点です。



これまで海外へ行ったことはあったけれどそれは親と一緒に、基本的に親がいろいろやってくれていたからですべてが自分の力ではありませんでした。しかし今回の海外派遣は自分一人で10日間もやってきたので、この経験は大きなターニングポイントとなりました。自分がこの事業に参加する契機となったいとこのように、将来世界中を一人旅したいです。それは世界中に友達がいたら楽しそうだからです。世界中に友達を作るためには積極的にコミュニケーションをとることが大切だと今回の海外派遣を通して身を持って感じました。

派遣生徒レポート～もう一つの家族～

学校生活について



一言で言うと、ものすごく楽しかったです。

初日、初めて話したレッドクリフハイスクールの生徒がバディの Dylan だったのですが、お互いに恥ずかしくてなかなか話せませんでした。話した時も、Dylan のネイティブな英語がなかなか聞き取れませんでした。オーストラリア人はみんな外国人に分かりやすく伝えようとする情けがないなあと感じましたが、それはすぐなくなりました。例えば、東キャンパスにいた時に生徒数人が話しかけてきて、順々に自己紹介をしてくれました。彼らの英語はゆっくりで聞き取りやすく、とても嬉しかった

です。彼らとハンドボールをして遊んだ時も、ルール説明が簡単な英語とジェスチャーで分かりやすかったです。レッドクリフハイスクールへ行くたびにハンドボールをして遊びました。

様々な学年の生徒と触れ合う機会がありました。学年が違う生徒と触れ合う時(特に年上)は緊張しましたが、積極的に話しかけてくれて、絶対に僕が輪に入れないような状況になりませんでした。

スカーバラ小学校も、レッドクリフハイスクールと同じくらい楽しかったです。小学生は Dylan 並みの高速英語で話しかけてくると予想していたが、案外聞き取りやすかったです。聞き取れない時は耳に手を当てて「ん?」と言ったら、ものすごくゆっくり話してくれました。それでも聞き取れなかった時はアルファベットを並べ始めてくれました。ここまでしてくれるか～と感動した。児童数十人に囲まれて昼食を食べたのですが、その時みんなが僕にたくさん質問をしてくれました。スポーツは何かしてる?とか、何かゲームしてる?とか聞かれて、テニスをしているとか、どんなゲームをしているかを答えたりして盛り上がりました。スカーバラ小学校を訪問したのがオーストラリアに着いて6日経っていてネイティブの発音に慣れていなかったからか非常に楽しかったのですが、ネイティブの発音に慣れていない初日の自分だったら、おそらくこの時の質問攻めは苦痛だっただろうと思います。

学校生活全体が日本と比べてはるかに楽でした。日本では6時間授業ですが、レッドクリフハイスクールでは4時間授業で2時間目と3時間目の間に休憩時間がありました。学校が終わるのが13時過ぎで、家に帰ってから食べるので給食もありませんでした。体育館はなかったけれど、広大なバスケットコートやテニスコートやサッカー場がありました。

自分が受講する授業を受けに行くので、1組2組みたいなクラスはありませんでした。授業は先生の話の聞くだけではなくて生徒が自分達で広げていく感じでした。先生の話の聞くだけだと聞き逃す可能性があるが、自分たちが積極的なので自然と頭にも入ってくるし楽しく学べていいなと思いました。オーストラリアでは教科書やノートではなくパソコンを使っていました。ハイテクだなと思いました。

ホームステイについて

非常に有意義なものとなりました。

初日の夜、僕はホームシックになりました。レッドクリフハイスクールからホストファミリーの家へ移動する途中にも「本当に来ちゃったんだな。」と不安になり、異国の他人の家に自分一人が放り出されたような気分になりました。Dylan達と遊んでいる時は楽しかったけれど、寝る時、ドアを閉めた暗い部屋にドアの隙間から光が入り込んできたのを見た時、なんだか無性に帰りたくなりました。しかし二日目からはオーストラリアでの生活がとても楽しくなり、ここで生まれ育ったかのような感覚になりました。



ホストファミリーはホストファーザーの Dale、ホストマザーの Steph、バディの Dylan と飼い犬のメジャーという構成でした。ホストファミリーはすごく良かったです。

初日はホストマザーの Steph と Dylan とでドライブをして、モートンベイ市がどんな場所かを教えてもらったり、家族構成や好きなもの嫌いなものを伝えたりなどお互いに自己紹介をする日でした。Steph は、オレンジが好きだと言ったら毎日オレンジを出してくれて、用意してくれた弁当にも入っていました。家中の設備について案内してくれたり、晩御飯のメニューの希望を聞いてくれたりしました。

Dale はとても面白い人で、常時テンション MAX な元気な人でした。僕はとうもろこしが好きではないとホームステイアプリケーションに書いていたので、特大サイズのとうもろこしを持って「Do you like corn?」とジョークを言ってきました。それに対して No を連発すると爆笑されました。トラベルという盤上ゲームを初めにやろうと言ってくれたのも Dale でした。僕はトラベルをととても気に入ってほぼ毎日家族でやっていました。最終日にホストファミリーからプレゼントをもらったのですが、その中にはトラベルが入っていてとても嬉しかったです。

Dylan はとても恥ずかしがり屋でした。例えば Good night を Dale や Steph は笑顔で言ってくれるのに Dylan はもじもじしていました。Dylan とはよく一緒にメジャーの餌やりや散歩をしたり、マリオカートや Wii スポーツなどのテレビゲームをしました。僕はゲームが好きで日本でもよく遊んでいたのですが、英語表記だったけれど内容は分かるし、外国にも自分と同じ趣味を持っている人がいてくれて嬉しかったです。



面白かったことは、僕がお土産で持って行っためんつゆを Dylan がパンケーキにかけて「Is this OK?」と聞いてきて、僕がそれはそうめんを使うものだと言ったら、頭を抱えて叫びつつも「Try!」と一人で言って食べて、更に発狂していたことです。

ホームステイ中、僕は皿洗いやメジャーの餌やりの手伝いをしました。お風呂は基本シャワーで、2日に1回くらい浴槽にお湯を入れてくれたが入るのは僕だけでした。

晩御飯は、日本では栄養バランスを考えられているけれど、オーストラリアではおいしさ重視で野菜が少なかったです。



印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

去年、海外派遣のプリントを見た時、行きたいと思ったけれど応募しませんでした。今年は勇気を出して応募したけれど、受かる自信はあまりなかったです。山陽小野田市の魅力について自分で調べて少しでも受かるように努力したけれど、面接では予定通りに受け答え出来ず、市から手紙が届いた時は落ちたと思いました。だからこそ受かった時は物凄く嬉しく、これは頑張らなければと思いました。

実際行ってみて思ったのは、向こうでの自分は「頑張った」のではなく「楽しんだ」という事です。

少しでも興味があるなら是非応募するべきだと思います。楽しくないことはないです。本当に全部が楽しいです。確実に世界が広がるし、絶対にまた行きたいと感じます。

正しい文法を使うことも大切だけれど、それを重視し過ぎて会話が続かないのならば間違った文法でも伝えようと努力するべきだと思います。現地の人は理解してくれます。

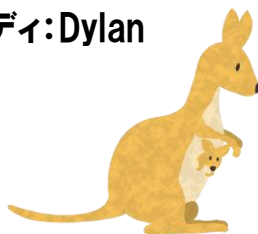
お世話になったホストファミリー



父:Dale Draper

母:Stephanie Draper

バディ:Dylan





高千帆中学校3年

やまもと なつみ
山本 夏実

1計画(PLAN)

英語での会話をしていく中で英語力、コミュニケーション能力、積極性を上げること。

→小さい頃から習い続けてきた英語がどれだけ通じるのか分かりませんが、思ったことなどは必ず言ってみてとにかく自分から話しかけます。もし英語が伝わらなくてもジェスチャーなどを使って最後までしっかり伝えきるようにします。そしてまずは、会った人すべてにあいさつをしようと思います。

2行動(DO)

とにかく自分から話しかけるように心がけました。その場で何か質問や話題を考えて、思いついたら英語で言ってみるの繰り返しで、全く文法も整っていなかったと思うけど、とにかく質問などをする事で話しかけました。ときどき分かってもらえなかったこともありましたが、自分から話しかけることがすごく大切だなと思いました。また、自分の分かる文法を使ってきちんと文で英語を伝えられるようにしました。学校で習う文法も思ったより使えて、その文法を使うだけでも会話出来るんだなと実感しました。なかなか英語が伝わらない時はジェスチャーをたくさん使いました。オーストラリアの人みんなジェスチャーを使っていたので、そのジェスチャーで理解できた時もあったし、私がジェスチャーを使ったことで理解してもらえたこともあったと思います。ジェスチャーを使って自分の思う事を伝えることも大切だと思ったし、伝えられた時はとても嬉しかったです。また私は現地で辞書を使いたくなかったのも、基本的に辞書は使いませんでした。辞書を使えば分かる英語や会話もあったかなとは思いますが、私は使わなくて良かったと思っています。日常的な会話を体験するというのも自分の中での目標だったので、辞書を使わなかったことによって、日常の会話にも馴染めていたと思います。

3評価(SEE)

☆90点☆

話すことに関しては、積極的に自分から話すことができたと思います。10点引いた理由は、バディの Katie と遊ぶ時に自分で「これをやろう」や「これがやりたい」と初めは全然言えなかったからです。後半くらいになると、「何をする？」と聞かれた時に自分がやりたいことを伝えられたと思いますが、Katie はいつも「これやらない？」と私のところに来てくれていました。私はその部分ですごく頼ってしまったなと思います。また、何かを伝えようとしてくれているのに私が分かることができなくて流れてしまった会話が何度かあったからです。その会話を繋げられていたらもっと良かったなと思うし、そこは私の英語力の不足でもあると思います。これから英語が今よりもより本格的に話せるように、もっともっと勉強をして、全く差を感じないで話せるくらいまでになりたいです。そして外国人の方とたくさん話がしたいです。

派遣生徒レポート～忘れられない10日間～

学校生活について

オーストラリアの学校生活は日本とは全然違っていました。まず、私の学校では基本的には 50 分授業が6時間ありますが、レッドクリフ・ステート・ハイスクールでは 70 分授業が4時間ありました。私は学校が終わるのが午後4時前後なのに対し、3時には学校が終わり、みんな家に帰っていました。すごく帰る時間が早いことに驚き、羨ましく思いました。また、私は放課後に部活動をしています。オーストラリアで部活動はありませんでした。でも、バンド(吹奏楽)やネットボール、バレーボールなどをしてる人もいて、やりたい人がやりたいことをやっているんだと思いました。知ってはいたけど、パソコンを使っただけの授業がすごくて実際に見てみて驚くことばかりでした。パソコンは先生と繋がっていて、小学校に行くと低学年の子でもパソコンを使って授業を受けていました。パソコンで授業をほとんど受けたことがない私にとってはとても新鮮でした。私もオーストラリアでの授業のようにパソコンでの授業を受けたいと思いました。オーストラリアではびっくりするくらいみんな積極的でした。授業中、聞きたいことはすぐその場で聞いたり、意見や言いたいことは積極的に発言したりしていました。日本とは雰囲気も違って、とても楽しい空気の中で授業を受けていることが私はすごくいいと思いました。



食べ物をどこで食べてもよかったり、髪型、髪の毛の色、ピアスなどの校則が日本よりも厳しくなかったり、先生方はとてもフレンドリーだったりオーストラリアの学校では私にとって羨ましいことばかりだったし、個性が尊重されているように思いました。私はオーストラリアの学校に通いたいと思いました。

ホームステイについて

私のホストファミリーはみんな優しくて本当にいい家族で、ずっと一緒にいたくなるような家族でした。

オーストラリアに行く前からバディの Katie と連絡を取り合っていて、写真を送りあっていたのでお互いの顔は知っていました。初めて Katie に会った時、ニコッと笑ってくれてとても嬉しかったのを覚えています。そのあとの初めてののちゃんとした顔合わせの時、Katie がコアラのぬいぐるみをプレゼントしてくれました。その日私は、そのコアラを1日中抱いたまま過ごしました。その後にスクールツアーがありました。そこではそれぞれのバディに説明してもらいながらまわりました。私はその時オーストラリアの人の英語の話す速さにびっくりしました。今まで学校やクラブで話したり聞いたりしてきた英語とは比べ物にならないくらい速くて、これからこんな速さの英語についていけるのかなと少し不安になりました。でも私が Katie に質問をしたり、



話しかけたりして英語を話すと、Your English is very good!!と褒めてくれて、少し自信がついてきました。家に帰る時、おじいちゃん、おばあちゃん、いとこの Emmily と初めて対面しました。みんなすごく優しい人だと感じました。バディの家の車に乗せてもらって帰りました。車の中ではもちろん不安もありましたが、95%くらいが楽しみで仕方なくてワクワクでうまっていました。



バディの家について、私が 10 日間過ごさせてもらう部屋に案内してもらいました。その部屋はすごく大きなベッドがあって、花が綺麗に飾ってありました。ひとつひとつ丁寧にシャワーの使い方やクローゼットの場所などを教えてくれました。Katie は私と話す時、少しゆっくり話してくれて私が聞き取れるようにしてくれました。そのおかげで少しずつ現地の英語を聞き取ることが出来るようになりました。初日の夕方に日本から持ってきたお土産を家族みんなに渡しました。みんなすごく喜んでくれて私もすごく嬉しかったです。私は箸を持っていったのですが、その日からみんな夜ご飯の時に箸を頑張って使ってくれました。でも「無理!」とフォークに戻ったけど、おばあちゃんは私がいる間、ずっと箸を使ってくれました。私は日本の遊びとして、折り紙、けん玉、竹とんぼなどを持っていき、

Katie は竹とんぼをととても気に入ってくれて、その日からほとんど毎日竹とんぼと一緒に遊びました。また、ラグビー観戦の時にもらったハンドボールも毎日一緒にやりました。その日の夜におばあちゃんがバタードフィッシュを作ってくれました。ナイフとフォークで食べるのは少し難しかったけど、とても美味しかったです。

オーストラリアでは寝る時間がはやいと聞いてきて、ホストファミリーは9時から10時くらいには寝ていました。すごく健康的な生活だなと思いました。

ホストファミリーはわたしを休日に、サウスバンク、ブリスベンの都市や熱帯雨林、ビーチ、いちご狩り、コアラがメインの LONE PINE KOALA SANCTUARY という動物園など、とにかくたくさんの場所に連れていってくれました。コアラがメインの動物園に連れていってくれたのは、オーストラリア ZOO に行った時にコアラを抱っこできなくて、抱っこしてみたかったとおばあちゃんに言ったからだと思います。私のためだけに連れて行ってくれて本当に嬉しかったです。私にとってはどこに行っても全て初めてだったのですごく興奮したし、楽しかったです。どの場所でも Katie は私にいろんなものの説明をしてくれて、私はたくさんのものを知ることが出来ました。私は特にコアラを抱っこして Katie と写真を撮れたことがすごく嬉しかったです。



また、Katie がやっていたネットボールの試合も観に行きました。初めて観ましたがとても面白くて私もやりたくなりました。家に帰った時にやってみる?と Katie が教えてくれて少しだけネットボールをしましたが、思ったより難しかったです。

私は日本から持っていたものをたくさん披露しました。私は茶道をしていたので、1杯だけお茶を点ててみました。おばあちゃんとおじいちゃんの口にはあまり合わなかったようでしたが、

Katie は美味しいと飲んでくれました。お茶を点てたときに日本のお菓子もしました。抹茶のキットカットやもみじ饅頭、おせんべいなどを出しました。もみじ饅頭やおせんべいはおじいちゃん、おばあちゃんも美味しいと食べてくれました。また、夜ご飯の時に卵焼きや味噌汁を作りました。卵焼きは作っている時にすごい！と言ってくれました。味噌汁はあまり口に合わなかったみたいです。

折り紙で一緒に鶴をおったりもしました。Katie が鶴の折り方を知っていて私の方が驚かされました。Katie はすごく折り紙が上手でした。私はその場で折り方を検索して Katie の名前を折り紙で折って、プレゼントしました。

車に乗っている時に一緒にゲームをしよう！と言ってくれました。黄色い車を見つけたら、「スポロウ！」と言うゲームで先に言った方が勝ちのゲームや、英語で初めの文字を言ってその単語を当てるゲームなど、少し難しかったけど本当に楽しかったです。黄色の車のゲームはいつもやっているみたいでした。また、音楽をガンガンに流してドライブもしました。みんな車の中では熱唱して、私は、歌は知らなかったけど、Katie がダンスを教えてくれ、一緒に音楽にのって楽しめました。

Katie は日本語も勉強しているので、ときどき日本語を話そうとしてくれました。あなたはこれが好きですか？とかおいしい？とか聞いてくれて、日本語がすごく上手でびっくりしました。Katie からは英語を教えて貰って、私は日本語を教えてとお互いに教えあえてよかったと思います。

夜ご飯の時にいつもおばあちゃんが「今日の1番のパートは？」と聞いてくれました。みんな私が伝えたいことをちゃんとした英語で話してくれて「あってる？」と言ってくれていました。

初めの頃は不安も大きかった英語ですが、帰る時が近づいた頃には英語にも慣れ、だいぶ聞き取れるようになりました。特に英語を褒めてもらえた時はとても嬉しかったです。

私は Katie と姉妹のように過ごしました。朝は早く起きた方からおはようと言いに行って、朝ごはんを食べて学校に行って、学校から帰ったらハンドボールと竹とんぼで一緒に遊んで、Katie が宿題の時はそれぞれ自分の部屋で宿題をして、夜ご飯を食べて、宿題が終わったら Katie の部屋で一緒に映画を見たり、ときどきマリオカートをしたりもしました。私は英語を書いて、Katie は日本語を書いていた時に、私は Hello を Hell と書いてしまっていて Katie はわたしをはたしと書いていました。それをお互いにからかいあったりもして、2人でずっと笑っていました。また、豚の真似とダンスを組み合わせてやって笑ったり、映画で笑ったり本当に楽しかったです。



最終日は2人で朝から泣いていました。それくらい私は充実しすぎた10日間を過ごしました。学校に行かないと行けない時間の本当にギリギリまで、絵を書いてそれを紙飛行機で飛ばして遊びました。集合時間になって学校に行ってからずっと2人で泣いていました。私は本当に素敵なバディ、ホストファミリーに恵まれて幸せでした。

私を家族として受け入れてくれたホストファミリーに本当に感謝しても感謝しきれないくらいです。そして、またオーストラリアに、行った時は必ず Katie の家に帰ってきたいです。

印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

動物園でカンガルーにえさやりをしたのですが、私のピョンピョンずっと飛んでいるイメージとは裏腹に餌が欲しいカンガルーはとてものんびり寝そべっていたことにビックリしました。

また、車が日本の車がとても多くて、外国でも日本の車は乗られているんだなと思いました。



お世話になったホストファミリー



祖父:Jefferson Gahan

祖母:Vicky Gahan

バディ:Katie Brooks





高千帆中学校教諭

ふじた たかこ
藤田 孝子

令和元年度中学生海外派遣事業 帰国報告

8月8日(木)から8月19日(月)の12日間、山陽小野田市内の中学生8名と引率者2名でオーストラリア・ブリスベンにあるモートンベイ市を訪問した。この海外派遣を通して、参加者皆がそれぞれの立場でオーストラリアを堪能し、日本では味わうことのできない経験をする事ができた。同市で経験したことを元に、中学校教員の立場から感じたこと、考えたことを報告する。

□オーストラリアの教育

海外派遣時には、生徒たちはモートンベイ市にあるレッドクリフ・ステート・ハイスクールに通った。オーストラリアの教育制度は、プライマリースクール(小学校)が6年間、ハイスクール(中高一貫)が6年間である。1限の授業は50分で、2限終了時に、休憩時間が20分ある。休憩時間時は、外でハンドボールを使って遊んだり、軽食をとったりしていた。そして、3限目を終えるとまた、長めの休憩があり、ランチを楽しみ、各々がリラックスした時間を過ごしていた。また、今回、山陽小野田市の小学校と姉妹校を組んでいるスカーバラ小学校(高千帆小学校と姉妹校)とハンピー・ボンゴ小学校(赤崎小学校と姉妹校)も訪問した。小学校とハイスクールの授業に参加してわかった、オーストラリアの教育の特徴は2点ある。1点目は、ICTの充実である。小学校の日本語クラスでは、1人1台タブレットを用いて動画を見て日本語の文法を学習していた。また、ハイスクールでは、自前のパソコンを使って調べたり、メモをとったりしていた。ICTの活用により、両校舎とも日本のような黒板は無く、板書はほとんど行われていなかった。日本では、教員がパワーポイントなどを使って説明することはあっても、生徒たちが直接ICTを使うことは少ない。しかし、今回のオーストラリアの授業の様子をみて、個人のペースで授業を受けることができ、生徒の興味関心を引くことができるので今後の授業の参考にしたいと思った。



2点目は、子どもの「学びたい！」気持ちを尊重した教育を行っていることである。高校では、全生徒が日本語を選択しているわけではない。8年生のとき、各々が自分で教科を選択して、ハイスクール在学中に学びを深めている。実際に日本語の授業と家庭科、科学の授業に参加をしたが、生徒たちがとても積極的に授業に参加している姿がとても印象に残った。確かにバランスよく教養を身に付けることは大切だが、生徒の長所や特技をさらに高める時間を十分にとっているオーストラリアの教育はとても魅力的であった。日本では、特に中学校以上に進学すると、進路のことを考えた授業が中心に行われている。「学ぶこと



イコール入試に向けて」と考える生徒も多く、もともと「何のために勉強しているのか」、「自分は将来どのようなことをしたいのか」を真剣に考えながら学校生活を送っている生徒が少ないように思う。教育制度そのものを変えることは難しいが、授業を創る中で生徒の興味関心を高め、もっと英語を使いたくなる環境を設けることを意識していきたい。これらのことから、今回のオーストラリアの訪問は大変勉強になった。

また、小学校では体験的な授業が盛んに行われていた。例えば、日本語の「場所」を示す言葉を勉強するとき

に、タブレットを用いて文法を確認した後、児童たちは教室の外に出て、教師の日本語の指示を聞き取り、その指示を理解しているかの確認を実際に行っていた。復習の方法も、文法を確認するだけでなく、その文法がどういう場面で、どのように使われるのかを確認できることで、児童たちは自然と何の違和感もなく日本語を身に付けていった。全ての文法を体験的に学習することは難しいが、実用的な場面を設定したり、実際に人とのやり取りをしたりする中で生徒たちに「英語を使ってみよう」と思わせるような授業づくりに励みたい。

□ホームステイの様子

生徒たちは、初日は今まで経験したことのない状況下に置かれ、不安になる者もいた。しかし、オーストラリアはとても親日国家であり、私たちを受け入れてくれた。そのため、はじめの 3 連休が終わった次の登校日には、休日の話に花を咲かせていた。各バディーたちは、日本や、日本語に対して強い関心があり、積極的に話しかけたり、質問する様子が見られた。その姿に答えようと辞書やスマートフォンのアプリケーションを駆使しながら答えようとしていた。このような姿勢は今後の生活の中でもとても大切であるため、生徒たちにとって、とても良い経験になったと思う。また、オーストラリアの伝統料理を作ってもらったり、逆に日本人の生徒が唐揚げやお寿司などを振る舞ったりした様子を聞くと、お互いが歩み寄り関係を築こうとしていたことがわかり、とても嬉しく感じた。滞在中に最も長い時間を過ごしたのはホストファミリーだっただけに、最終日、お別れをするときは、とても感動的な場面が各家庭でいくつも見られた。バディーの組み方も、共通の趣味をもった人同士をバディーにするなど、とても配慮されており、生徒たちもスムーズに人間関係を築くことができたと思う。

□全体を通して

12 日間の研修までに、計 3 回のオリエンテーションを行った。生徒たちはオーストラリアの人たちとだけではなく、一緒に参加をした市内の生徒同士の仲を深めることができた。事前のオリエンテーションは、生徒同士の結束を深め、情報交換などでもできるととても良い機会になった。初めての顔合わせの時は、皆が緊張し、ぎこちない関係であったが、オリエンテーションの回数を重ね、一緒に出し物を考えたり、活動をしたりする中で、自然と笑顔が増えていった。特に、オーストラリアに着いてから学校に通うまでの 3 日間は、いきなり英語しか飛び交わない環



境に置かれ、不安でいっぱいになりホームシックになる生徒たちもいた。しかし、フットボールの試合を観戦した時、日本人の生徒たちと再会し、今まで以上にチームワークが深まった。そして、日を重ねる毎に英語を聞き取れるようになり、積極的に話しかける様子を目にしたとき、彼らは自分自身に自信をもち、成長しているように感じた。今回の研修の中で、リスニング能力以上に「生きる」力を生徒たちは身に付けることができた。自分の状況を正しい英語でなくても伝えようとする、空港でどのターミナルに行くべきか自分たちで確認する等、自分たちでできることが増えていることがわかった。

今回の経験を通して、生徒たちも私たちもたくさんのことを学ぶことができた。オーストラリアの良さはもちろん、日本の良さ、そして課題についても考えることができた。この貴重な経験を今後の生活に生かし、グローバルな視野をもった人に成長してほしいと思う。





山陽小野田市市民生活課

おかの ふみえ
岡野 文恵

中学生海外派遣に引率して

《活動内容》

8月8日木曜日、朝6時57分に生徒は家族に見送られ厚狭駅を出発し、福岡空港から6時間かけてシンガポールのチャンギ国際空港へ到着した後、夜9時30分にブリスベン行きの飛行機へ乗り換え、翌朝の7時にオーストラリアブリスベン空港へ到着した。今回滞在中にお世話になる学校は主にレッドクリフステートハイスクールである。ハイスクールに着いたその日から早速学校生活に入ることとなり、その日は学校案内やバディと呼ばれるホームステイする家の生徒の紹介、BBQ やハンドボール、折り紙をして過ごした。歓迎会の時に、生徒がセラピー犬を連れてきており、週3回学校に来ると聞いて、非常に驚いた。BBQは、学校近くのビーチで行ったが、波が穏やかで、ゆったりとした山陽小野田市のきららビーチと感のよく似た



場所だと感じた。オーストラリアのハンドボールとは、日本のハンドボールとは違う遊びで、約1メートル四方の4画コートに各自が入り、手のひらを主に使ってテニスのようにバウンドさせ続ける遊びである。ハイスクールの生徒の間でも、人気の遊びで、山陽小野田市の生徒もやり方を聞いて、積極的に参加していた。とても気に入って、休み時間にはまたやりたいという生徒もいた。およそ1日にわたる渡航で、機内は寒く、乱気流で揺れもひどかったため、相当疲れ、体調を崩す生徒もいたが、初日からハイスクールの生徒と仲良くなろうと積極的に行動していたように見られた。

到着した日の翌日から3連休が続き、山陽小野田市の生徒たちは、帰国までホストファミリーのもとでずっとホームステイすることとなるが、家族のもとを離れ、コミュニケーションが思うように取れない中、無事過ごすことができているか心配ではあった。ホストファミリーは大半が今回が初めての受け入れだが、大変細やかに気を遣ってくれたようで、休日中には体調不良や、ホームシックにかかっている生徒がいることを心配してくれていた。今回の派遣事業の計画やお世話をしてくださっているハイスクールのジェシカ先生も、逐次生徒の状況が分かれば、私たち引率者に教えてくれた。連休初日の夜、山陽小野田市生徒とバディとが一堂に会し、ラグビーの試合を見に行くイベントがあり、そこでは1日ぶりの生徒同士の再会ではあったが、お互いの活動内容を報告し合い、笑顔が見られたので安心した。

モートンベイ市に来て5日目の火曜日、それぞれの連休の過ごし方を聞くと、ホストファミリーにサンシャインコーストやいちご狩りなど、色々なところに連れて行ってもらったり、早速おにぎりや巻き寿司を一緒に作ったりしたと楽しそうに皆話していた。その後、オーストラリア動物園に、新しいハイスクールの生徒との組み合わせでバスに乗って行った。ジェシカ先生が、新しいペアでバスに乗っている間、お互いの3つの情報を得ることという課題を出された。初対面でいきなりバスでペアになったことで、会話が進みにくい生徒もいたようだが、どのペアも互いの3つの情報は得られていた。動物園に到着して、まず、オーストラリアには有袋動物が多いことなどの説明を聞いた後、カンガルーの餌やりや、コアラ、ヘビなどを見たり触ったりし、その後、オーストラリア北部に生息するワニのショーを見た。ショーの最初に、ゴミはゴミ箱へきちんと捨てること、ヘビに遭遇した時の対処法などの説明があり、動物との共生を重要視しているのだと感じた。5日目の夕方には、1人の生徒のホームステイ先を家庭訪問ということで、少しだけ様子を見させていただいた。訪れた時は、生徒はバディとサイコロを使ったゲームを楽しんでいて、ホストファミリーも、とてもいい子だと褒めていらっしやり、バディの部屋を生徒に貸してくださっていて、温かい心で迎え入れてくださっていることを感じた。



6日目は高千帆小学校の姉妹校であるスカーバラ小学校へ、7日目はハイスクールで、8日目は赤崎小学校の姉妹校であるハンピーボング小学校で、日本語や音楽、理科、体育などの授業に参加した。2つの小学校では、低学年からおそらく全員が日本語の授業を受けており、日本に対する関心が強いことを感じた。また、授業によって、教室を移動するが、クラス全員が通路に2列に整列して、静かに移動しているところを見て驚いた。どの学校も、給食というのはないが、1日の時間割の中に昼食及び昼休みの時間が2回設けてあった。黒板・ホワイトボードはあまり授業で使われず、大きなスクリーンに動画の教材を映したり、一人一人が使えるタブレットをヘッドフォンをして各自が学習する授業もあった。ハイスクールでは、生徒がスマートフォンや個人のパソコンを持参して授業を受けていることもあった。また、2時40分で授業は終わり、塾に行く様子もなく、自由時間が多いようだと感じた。

8日目の午後からは、ハイスクールに戻ってさよならパーティが行われた。山陽小野田市生徒は、日本にいる時に、「かるた」と「よさこい踊り」の出し物をするので皆で決めて、かるたの題材を決めたり、絵を描いたり、説明の英語文を考えたり、よさこいの踊りの練習をしたりと一生懸命取り組んできていた。パーティでは、2つとも大盛り上がりとなり、ハイスクールの生徒も山陽小野田市の生徒も非常に楽しんでいたのも、一生懸命準備に取り組んだ成果が出てよかったと思った。



9日目、ホストファミリーと最後の1日となり、それぞれが食事や外出を家族で楽しんだ後、10日目、別れを惜しみつつ帰国の途に就き、約20時間かけて山陽小野田市へ到着した。

《全体を振り返って》

山陽小野田市生徒は、最初は食事や生活・学校環境に慣れるまで、いろいろな思いを感じたようだが、毎朝学校に来て、昨日はどうだったかと聞くと、ホストファミリーといろんな体験をさせてもらっていて、充実した毎日を送っていることが感じられた。また、日を追うごとに「日本に帰りたくない」、「オーストラリアに住みたい」という声は強くなり、一つ一つの活動に積極的に参加し、楽しむように努力していたように見受けられた。どの学校に行っても、行き交う生徒とあいさつをし、現地の生徒も笑顔で、時に日本語であいさつを返してくれたり、ハイタッチを求めてくれたりして、とてもフレンドリーであった。

ハイスクールでお世話してくださったジェシカ先生、ジェシカ先生と同じく日本語教師のリア先生は、私たち引率者のことも気にかけてくださり、休日にはドライブに連れて行ってくださった。モートンベイ市は3つの町が合併して広域の自治体となった。ブリスベンとの間に橋ができた、駅が改築され、線路が拡張されて交通の便も良くなり、新しい家や大学が建設中である状況を見て、都市化の勢いがあると感じられた。一方でカンガルーやコアラは、宅地近辺でも生息しているようで、野生のカンガルーは見ることもできた。また、先生方と交流することで、オーストラリアの現状や先生方の考え・生き方などを聞くことができ、とても参考になった。細やかな気配りと寛大な心で私たちを楽しませてくれたので、国や文化が違っても、人と人、思いやることの大切さを改めて考え直す機会となった。

今回の派遣事業を通して、生徒や先生、モートンベイ市の人々の心のあたたかさ、寛容な受け入れとおもてなしに、言葉では言い表せないほどの感謝をしている。こうしたやさしさや親切さを決して忘れず、ハイスクールや小学校の生徒が日本を訪れる計画も上がっていると聞いているので、日本に来られた際は、ぜひ山陽小野田市にも立ち寄っていただき、今度は自分たちができる限りのお返しをさせていただければと思った。また、生徒たちが、異なる文化に触れ、自国や自分の環境、自分自身を見つめ直す良いきっかけとなり、今後の人生を思い切り楽しみ、大いに活躍することを願う。



編集・発行

山陽小野田市市民部市民生活課

〒756－8601

山陽小野田市日の出一丁目1番1号

TEL 0836－82－1134

FAX 0836－83－2604